

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年6月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872400262		
法人名	株式会社 ウェルビー		
事業所名	あつとホーム きりん荘	ユニット名	
所在地	〒302-0118 茨城県守谷市立沢950-1		
自己評価作成日	平成27年12月11日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0872400262-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年2月17日	評価機関 決済日	平成28年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・きりん荘にて力を入れている点は、管理者・職員にて作成したグループホーム理念に基づいた支援です。理念項目が7つあります。</p> <p>・1つ目の喜怒哀楽な表情がある(できる)ことは人間としての生きている証です。いつまでも笑顔や笑える環境づくりを目指して日々のレクリエーションや行事に努めています。</p> <p>・2つ目は夕食の献立を入居者へ相談し買い出しや一緒に作ることで食事だけでなく調理過程も含めた食事援助に努めています。</p> <p>・3つ目は食事等、時間にとらわれずに本人のペースに合わせた生活が提供出来るよう努めています。</p> <p>・4つ目は日々の生活に施設内外の散歩を日課とし、気分転換や近隣の方達と話せる環境づくりに努めています。</p> <p>・5つ目は今までの暮らしを基に、職員の見守りや関わりを持つことでいつまでも本人の生きがいや楽しみが持てるよう努めています。</p> <p>・6つ目は認知症という病気を職員が理解し、温かい心で受け入れるよう努めています。</p> <p>・7つ目は入居者・家族との関わりを持ち、信頼関係を築けるよう日々努めています。</p> <p>また、本人がやりたい事であれば、どうすれば出来る様になるのかを常に考え、本人の力を最大限に生かす出来る様に支援しています。施設で生活をしていても、今まで過ごしてきた様に、外で畑仕事をしたり、近隣の施設へ遊びに行き地域の方と触れ合ったりまた、外に出る事で季節を肌で感じてもらえるよう努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者の「その人らしい生活を支援するためには何が必要か」ということを管理者と職員で話し合い、これを理念としている。</p> <p>事業所は車道に面しているが、敷地内を散歩したり畑を耕すなど、外気にふれて四季を感じる機会が多い。</p> <p>年に1回の家族会や運営推進会議、介護計画見直しの会議等に家族等も積極的に参加しており、職員と家族等との情報交換が密に出来ている。</p> <p>帳票類の記録が細かく整理されており、利用者の状況だけではなく、研修やイベント、そのほかの情報などが明確になっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを踏まえた理念を管理者や職員にて作成したものを共有し、常に意識できるよう台所や玄関に提示しています。職員や来訪時家族にも観て貰えるようにしているほか、定例会時にて職員で理念の意味を確認しながら読み上げ復唱を行っています。	法人の理念のほかに、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を管理者と職員で話し合っって作成し、玄関や台所に掲示するとともに、職員会議の際に唱和して周知している。 定期的に理念が現状に即しているかを職員会議等で話し合い、見直す事としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と職員が近隣に散歩に行き、挨拶を交わし顔なじみの関係を築いています。また畑で収穫した野菜を近隣に配布するなど、交流ができる関係性を築いています。また近隣の方から野菜や菊をもらった際には、入居者と一緒にお礼しに行っています。また地域のクリーン活動や日々の散歩にて施設周辺のゴミ拾いを行っています。	職員と利用者で散歩に出た際に、近隣住民と挨拶を交わしたり、ごみ拾いをしている。 近所の方から野菜やお花を貰ったり、事業所の畑で収穫した野菜を配るなど、地域の一員として近所付き合いをしている。 自治会に加入はしていないが、市が発行する広報誌等で地域のイベント情報を得、出来る限り参加するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他部署にて毎月第3日曜日にホッとカフェを開催しています。その際に、認知症の方やその家族が遊びに来られ、介護体験の話がされます。落ち着いた空間でお話出来るよう、認知症の方をGHへお誘いし、カラオケやレクリエーションを用いて楽しく過ごしてもらえよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行っています。家族が交代で参加しているほかに、市職員、民生委員、自治会区長、事業所職員が参加しています。その際に参加者からの提案等の内容を定例会にて職員へ報告し、市で開催の菊花展やひょうたんランタン作り等への参加をしています。	運営推進会議は家族等や市職員、区長、民生委員、職員が参加して2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の誕生会に参加した家族等から感想を聴いたり、民生委員から情報を得て職員と利用者で参加した、市民センターでのランタン作りの様子を報告し、次の地域行事への参加を検討するなど、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の認知症対応型共同生活事業所連絡会に参加しました。その時のテーマに沿って他事業所や市職員と情報交換し交流ができる環境に努めています。また市主催の感染等の研修会へ参加し、得た情報を事業所の委員会にて報告、検討しています。認定調査にて市職員や家族、職員にて関わりを持てるよう努めています。運営推進会議では入居者の状況説明や事業所内での事故や苦情等を市の担当へ報告することを義務づけています。	市主催の認知症対応型共同生活介護事業所連絡会や研修会に、管理者や職員が参加して市職員と情報交換をしたり、管理者が定期的に市担当課に足を運び、入退居状況や事業所の取組みについて報告している。 毎月第3日曜日の10時から12時に、事業所内で認知症カフェを開催しており、認知症介護を担っている参加者家族の情報などを市担当者と共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での年間研修計画があり、職員は身体拘束排除に関する研修を順次受講し、定例会にて研修参加職員が内容の報告し身体拘束の弊害を理解しています。また半年に1回ごとに身体拘束指針を読み上げ確認を行っています。現在、身体拘束をしなければならない状況は起きていないが、やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて、事業所での身体拘束廃止委員会を設置し、家族等の承諾書類を整備しています。扉を施錠しないケアに取り組んでおり、併設する事業所へ自由に入出入りしています。	年間研修計画を立てて、身体拘束排除に関する研修を全職員が受講しているほか、半年に1回は職員会議の際などに身体拘束指針を読み上げ、身体拘束による弊害を意識付けしている。 現在は身体拘束対象者はいないが、身体拘束廃止委員会を設置しており、やむを得ず身体拘束を行う場合には委員会で検討し、家族等に説明するとともに「同意書」や「経過観察記録」などの書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での年間研修計画があり、職員は虐待の防止に関する研修を行い、研修参加職員が定例会にて内容報告し虐待防止の理解に努めています。また新聞等にて取り上がった記事等を回覧し、職員が意識をもてるようにしています。入居者にアザが出来た際には、虐待の有無の確認を含め職員間で話し合い、職員同士で虐待を見過ごされることがないように努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所での年間研修計画があり、職員は権利擁護に関する研修を行い、研修参加職員が定例会にて内容報告し知識を深めています。成年後見制度については現在活用する機会はありませんが必要時に支援が行えるよう、今後も研修等にて知識を深められるよう努めていきます。また日々の生活にて自己決定ができるよう支援に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は口頭と文章でわかりやすく説明し、不安や疑問な点等を確認しながら行っています。改訂にあたっては当該改訂箇所を明示し、理解が得やすいよう説明を行っています。利用者の状態が変化した場合には終末期支援等を含めて説明を行い、家族の立場になって話し合いを行い、家族の理解と納得を得ています。施設を退所されたのちも協力体制を伝え、退所後の不安があれば都度問い合わせに応じる体制を整えています。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族とのカンファレンス・面会時に家族から意見や要望をお聞きし要望に沿えるよう努めています。要望内容をケアプランへ反映し職員が実践できるようにしています。またカンファレンスや面会時の記録を残すようにしています。	利用者からは日々の会話などから、家族等からは運営推進会議や家族会、記名式のアンケート、ケアプラン作成時のカンファレンス時などに聴き取りを行っているほか、面会の際には話し易い環境づくりに努めている。 イベント内容の提案や個別に「化粧をさせて欲しい」などの要望があり、職員会議で検討して実行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面接（2回/年）や定例会議、親睦会を行い職員間にてコミュニケーションを図っています。その中で職員からの意見や提案を傾聴しケアの質や仕事の意欲向上につながるよう努めています。又、今年度よりサブリーダー会議を開催し、情報の共有意見の反映に努め、リーダー会を通して上司への報告を行なっています。	年に2回の管理者との面談や、月1回の職員会議、親睦会などで職員からの意見を汲み取るようにしている。 サブリーダー会議やリーダー会議を通してより多くの意見が出るように工夫しており、「昼休憩が1時間取れない」との意見に対し、職員配置を工夫したり30分ずつ2回に分けて取れるように改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し目標管理を行っています。定期面接（2回/年）の際、目標に対する達成度、その経過（努力・実績）について考課し賃金に反映させていることから、各職員が向上心を持って仕事に取り組めるよう支援しています。また定例会議や親睦会でコミュニケーションを図り職員の意欲向上に努めています。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力や段階に応じOJTの実践や併設事業所の協力のもとに行う内部研修、法人グループが開催する研修のほか、認知症実践者研修にも積極的に参加をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新人職員に対し、入職後新人研修を行っています。また配属部署にて、主にプリセプターが新人チェックリストや介護業務チェックリストを活用し、日々目標と評価を行い教育に努めています。また各職員の能力や段階に応じOJTまたは併設事業所の協力のもとに行う内部研修、法人グループが開催する研修のほか、認知症実践者研修にも積極的に参加し他事業所との交流を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期にセンター方式の記入をご家族に依頼し全職員が入居者の言動・表情・仕草から思いを汲み取り様々な場面における対応方法を取っています。また入所時から1週間D-4シートを活用して本人の行動パターンや快・不快の理解と情報の共有・安心につながる対応の検討と信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時申し込みの面接時から傾聴の姿勢に心掛けています。担当者が中心となり面会時やカンファレンスの際に家族の意見や要望、不安を傾聴しています。また家族からいつでも話してもらえるように面会時等に近況報告をして現状確認をして頂き本人に対して一緒に支援出来る様に家族の存在の大切さも含めてお話しさせて頂き、家族からの要望などは定例会議にて職員間で話し合いケアプランに反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談において管理者が直接本人・家族と面接し簡易アセスメントを作成しています。また入所初期に家族へセンター方式記入を依頼し入居者本人・家族が必要としている支援を聴きながら対応しケアプランに反映させています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れず、一人一人に接しており表情・言動を確認しながら敬う気持ちで行動を共にし、食事は職員も同じテーブルで頂き日々の生活の中で関係性を築いています。家事はもちろん、昔ながらの料理（おはぎ、おせち等）、畑仕事、書道、華道など職員が入居者に教えて頂く機会を多く作っています。入居者それぞれが得意な分野で個性や力の発揮が出来るよう本人の意見を活かして好きな事、役割を持って生活が出来るように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い・入居者自身の以前の暮らしを聴きセンター方式を活用しケアに活かしています。また日常の中で聞いた入居者の思いを上手く伝えられ無い時は代弁し家族との絆を深めるよう支援していきま。行事には家族への参加も募り一緒に過ごす時間を設けています。行事後には家族同士、職員が意見交換出来る場を設けて家族同士の交流の場にもなっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆お正月に限らず自宅で過ごしたり毎週家族とお出かけする入居者もいます。家族との時間を大切に出来る様に入居者の言葉や行動をお伝えし家族の協力の重要性をお伝えしています。また、アセスメント表を利用したり本人や家族の話から入居者の生活歴や馴染みの人や場所の把握し通所介護事業所等を利用して入居者には日中遊びに行く時間を設け馴染みの方と会えるように支援しています。	センター方式のアセスメント表から、利用者の生活歴と馴染みの人や場所を把握するとともに、普段の言動などから利用者の希望を汲み取るように努めている。 以前通っていた併設のデイサービスの友人などが居室に訪ねて来たり、家族等の協力を得て自宅や美容室など、馴染みの人や場所との関係が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や社交性を踏まえ外出行事の組み合わせ、食事時の席の工夫をしています。決まった席は無く入居者同士、交流を図りながら座席に着いています。職員が入居者の思いを代弁し間に入って話のきっかけを作り、お互い支え合えるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出し、一周忌の際はご自宅にお線香をあげに伺っています。また施設行事へのお誘いなど声を掛けさせて頂き契約終了された後も、必要に応じて相談や支援が出来る体制を整えています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用する事により入居者1人1人の思いや意向を理解するよう努めています。日常の関わりや会話を通し入居者がやりたいと思う事や役割を持ち行動出来るよう職員は対応しています。意思表示が難しい入居者には日々の生活の中での表情や行動から入居者の思いを受け止めて支援しています。	入居時のセンター方式のアセスメントにより、利用者の思いや意向の把握をしている。 利用者毎に担当職員が決まっており、日常の関わりから、心身の変化や新たな希望等を明確にするようにしている。 会話で意思疎通が困難な利用者も、職員は表情や雰囲気から思いを推し測るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にこれまでの本人の暮らしを聞いたり、センター方式を記入してもらうことで情報収集をしています。また、事業所内のケアマネジャーにも情報提供を依頼しこれまでの暮らしをケアプランに反映し職員間に周知するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し1人1人の過ごし方で生活を送るよう支援しています。また時間の流れに沿って心身の力の発揮が出来るよう支援しています。定期的にミーティングやカンファレンスで他の職員から聞き取りや入院などでADLに明らかな変化があった場合に再アセスメントをしてケアプランの見直しをしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がよりよく過ごせる様、入居者及び家族の希望や医師、看護師、職員などの意見を反映させケアプランを作成しています。定期ミーティングにて評価を行い入居者の心身状態に変化が生じた場合には都度見直しをしています。更新時期には家族にお声をかけ意見や要望を伺い家族の意見を反映させたケアプランを作成しています。	介護計画は利用者や家族等の希望をもとに、医師や看護師、職員等の意見をまとめて計画作成担当者が最終確認をしている。 3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎の見直しの際にはカンファレンスを開き、利用者や家族等にも参加してもらっている。 日々の記録の中に、青字で記入する評価や、赤字で記入するヒヤリハットがある事で、より良い介護計画に役立っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の表情や言動などを具体的に記録し情報収集や共有に役立てています。ケアプランを手元において記録する事でプランを意識づけし、また記録に対し、プラン内容や体調変化に対し色分けすることで見やすくしています。記録内容を評価資料としてケアプランの見直し、作成にも活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケアとなった時にも入居者、家族の要望に応じられるよう医師や看護師との連携も行っています。看取り時には希望があれば家族も泊まれるよう対応しています。入居者が入院し胃瘻となり戻られた時も看護師や家族と連携をとり医療体制を整え受け入れる事が出来ました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園へ出掛けたり、地域の託児所と交流をしたり、地域の商工祭にも参加しました。託児所との交流ではベビーカーを押して子供をあやしたり、園児と一緒に体操をしたり。また商工祭では自分で好きな物を選んでお金を支払う等、入居者の持っている力を発揮できる機会を設けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族と協力医療機関をかかりつけ医にするかどうかの意向を確認しています。協力医療機関では、月に1回の訪問診療及び体調不良時の臨時診療が受けられ家族の意向や希望によっては他科受診や義歯が合わない場合は家族と相談のうえ訪問歯科を依頼するなど対応を行っています。	契約時に利用者と家族等に、かかりつけ医での受診を継続するか、協力医療機関に変更するか選択出来ることを説明している。 月1回の協力医療機関の医師による訪問診療があるほか、体調不良時は併設事業所の看護師による対応も可能である。 受診結果は看護記録に残し、家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が、毎日の申し送りに参加し入居者の体調管理や些細な異常にも早期発見、早期対応出来るように努めています。カンファレンスに参加し家族の不安に対して分かり易い病状説明や適切なケア、受診の対応をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の希望を聞きながら病院との連携を図り、早期に退院出来る様に積極的に働きかけ職員や顔なじみの入居者がお見舞いに行き安心して治療が出来る様にしています。退院前には職員・看護師が家族と共に医師による治療経過、注意事項の説明を受け職員間で周知し受け入れ体制を整えています。また協力病院からの担当医の往診時にも入院中の経過や情報交換も円滑に行えるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況に応じてその都度家族や医師・看護師・職員で話し合いながら対応していく方針で看取り介護方針に基づいての説明や同意書を用意しています。またマニュアルを活用し職員の知識向上に努め全職員が理解した上で取り組み家族の理解と協力を得て、最期まで入居者が安心できる環境づくりや苦痛を軽減できるよう努めています。	契約時に利用者と家族等に事業所の看取りに関する指針を説明し、依頼や同意を書面にて得るとともに、状況の変化に応じて何度も意思を確認するようにしている。重度化した場合には、その都度家族等や医師、看護師、職員で話し合いながら対応しており、最期は家族等が泊まり込むこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を学べるように定期的に施設内研修を行っています。またヒヤリハットや事故防止の為に委員会を設け委員会を中心に定例会議にて再発防止に向け職員間で話し合っています。急変時の対応の際も委員会が中心となって定期的に施設内研修を行いマニュアルはフロア内に提示し急変時や必要な際にすぐに見られるようにしてあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内の防災委員が主とし、消防署の指導のもと年2回避難訓練の実施を行っています。濃煙体験や消化訓練が出来るよう自治会や近隣住人へのパンフレットを作成し参加を呼びかけています、災害時に近隣への協力体制を築けるよう避難訓練を実施しています。また水害・震災にも連絡体制のマニュアルを作成し、職員の安否確認・状況把握に努めています。	事業所内の防災委員が主となり、併設の事業所と合同で、夜間想定を含めて年に2回避難訓練を実施している。食堂の緊急通報装置の横に職員の連絡先が掲示されており、緊急時には一斉に連絡が取れるようにしている。水やお米、おむつ等を備蓄し、チェックリストを作成して定期的に確認をしており、併設の事業所を含めて施設全体で補えるようになっている。地域住民に避難訓練のお知らせを配布しているが、参加には至っていない。	運営推進会議の際に避難訓練の予定を伝え、区長や民生委員の協力を仰ぎ、地域住民が避難訓練に参加出来る事を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の年間研修計画に組み入れて継続的に権利擁護の研修をしています。認知症の人の心理的理解の学習をもとにBPSDの誘引とならぬよう声かけや環境に配慮しています。特に排泄では強引な誘導は避け入居者の自尊心を傷つけ無いうミーティングなどで検討しています。個人情報に関する書類は鍵のかかる場所に保管しています。	事業所の年間研修計画の中の、権利擁護等の研修に職員は参加しており、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、認知症の心理的理解の学習も事業所内研修に含まれており、これをもとに言葉かけに配慮している。 排泄の誘導では、自尊心を傷つけないような最善策を職員会議などで話し合っている。 契約時に個人情報の使用目的を明記した書類に、家族等から同意を得ている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵の掛る書棚で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者の言動や表情から思いを組み取り伝えたい事訴えたい事を理解するように努めています。職員の思い込みで決定するのではなく、選択出来るものは本人に選択してもらい何がしたいのか行動を見守る等自己決定を促す働きかけを積極的に行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は1人1人の生活リズムに合わせて対応しています。朝食も一斉ではなく入居者のペースに合わせて提供しています。レクやアクティビティにおいても必ず全員が同じ事を行うのではなく本人が好むもの、長年親しんでいたものを個々に楽しめるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所時に、訪問美容室を利用するかあるいは今まで利用していた美容院・理髪店を利用するか家族と本人に意向の確認をしています。長年馴染んだ美容院や理髪店を利用する事で本人の好きな髪形やこだわりを知っているのでなるべくこれまで行っていた所をお勧めしています。また、行事・外出時には化粧を促しおしゃれ心を忘れない支援をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・片付けまで各入居者が出来る事を役割として怪我、転倒等の危険に配慮しながら行っています。入居者の好みを反映し定期的に外食、鉄板焼き、鍋、おやつ作りなどを行い、職員・入居者が一緒に食卓を囲むことで食事を楽しめる環境に努めています。	<p>昼食は併設事業所の厨房から調理済みの食事が届くが、朝食と夕食は職員と利用者が協力して調理している。</p> <p>利用者は味噌汁を作ったり、茶碗を洗ったりする役割を担い、職員と一緒に食事を摂る事で、食事の時間が穏やかな時間となっている。</p> <p>利用者の好みを聴き取り、敬老の日などの祝日に外食に出かけたり、バーベキューを楽しんでいる。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の状態を全職員が把握出来る様にチェック表を活用しています。水分不足にならない様好みの飲み物やゼリーや果物の提供もしています。献立表を作成し管理栄養士に毎月1回1週間分のカロリー計算してもらい指導を受けながら栄養面で偏りがないようにしています。また提供のタイミングや食器も一人一人の習慣や好みに合わせ工夫しています。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	マニュアルを活用し毎食後、ケアプランをもとに入居者1人ひとりにあわせた支援をしています。週に一度は入れ歯洗浄剤を使用し、殺菌消毒を行い必要に応じて歯科往診も利用し口腔内、義歯の確認をしています。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	今までのトイレの習慣を家族からの話やセンター方式を基にチェック表を活用して個人の排泄リズムを把握し定例会議にて職員間で話し合いケアプランに反映させています。本人に合ったタイミングでのトイレ誘導や腹圧をかけてトイレにて排尿出来るように支援しています。個人に合った対応をする事で紙パンツから布パンツへ変更した入居者もおり状況に合わせて対応し自立に向けた支援を行っています。	<p>センター方式のアセスメント表で今までの習慣を把握するとともに、排泄チェック表を活用している。</p> <p>その都度状況に応じたトイレ誘導をしたことで、紙パンツから布パンツに変更した利用者があり、一人ひとりにあったタイミングで声かけ誘導をし、トイレで排泄が出来るよう支援している。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族からの情報（センター方式）をもとに個々に合わせた排便リズムを把握するとともに、毎日の食事に根菜類、海藻、乳製品を取り入れ、おやつも乳製品、きな粉牛乳等を提供しています。また毎日の日課として体操、散歩、階段昇降も行い体を動かし自然排便を促しています。また便秘の際は看護師に相談し、腹部の張りや腸の動きを確認し内服を服用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	マニュアルをもとに週2回以上は入浴しています。今までの生活習慣に合わせて入浴者が入りたい時に入れるよう入浴日・入浴時間は決めず一人一人の希望に沿って支援しています。入浴に対しての不安や恐怖心がある入居者に対しては、家族への聞き取りや職員間で話し合い本人が安心して入浴できる方法を検討しケアプランに反映させ職員間で統一した支援を行っています。また入浴剤の使用や菖蒲湯・ゆず湯等の季節に合った入浴も楽しめるようにしています。	入浴は利用者が希望する時間にいつでも入れる体制を整えており、週2回以上は実施出来るように支援している。 手摺やシャワーチェア等を使用して、安心して入れるようにしているが、体調により併設事業所の特別浴槽を使用することもある。 入浴に対して不安や恐怖感があり、入浴回数が少なくなりがちな利用者に対しては、職員同士で入浴方法を統一したり、シャンプーハットを使用するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や状態を考慮し状況に応じて自室でくつろぐ時間を作っています。食後ゆっくりくつろげるように食堂の隣には和室を設け、テレビ前にソファを設置し、畑仕事の際に休憩出来るようにベンチを設置しています。夜間寝付けない方には臥床を無理強いせず、温かい飲み物を飲みながら職員との会話やテレビを観て頂き眠くなったら休む事で本人に寄り添い、安心して休める環境づくりに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに最新の薬情を綴じ、職員が薬の目的・内容・副作用について把握出来るようにしています。Nsと協力し薬板を活用し、薬の間違いないかWチェックを行っています。誤薬や飲み忘れ防止に薬チェックシートも活用し、服薬後に職員がチェックするようにしています。また個々の身体機能に合わせた服薬方法にて行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からも協力の依頼し、今までの暮らしや得意なこと等の情報をセンター方式にて得ます。また本人への聞き取りも行いその情報をもとにケアプランへ反映し、食器洗いや畑仕事。お花の手入れ等、個々に合わせた役割をもって日々の生活に役割や楽しみを持てる環境づくりに努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設外の散歩を職員と一緒にしています。また週に1回程度は近くの公園までドライブし、気分転換を図っています。行事では初詣やお花見、外食をしています。その際には、家族への協力の依頼をし、入居者様全員が参加出来るよう努めています。	天気の良い日には、職員と一緒に近所を散歩することが日課になっており、週1回程度は近隣の公園までドライブに行っている。 行事として初詣や花見、外食に出かけるほか、遠方の法事などに出かける際に、家族等の希望で職員が同行する場合もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に入居者様と一緒に食材の買い出しに行き、その際入居者様にお金を渡しレジでの支払いをお願いしています。また初詣等の行事でも、お賽銭を職員と一緒に投げお祈りし、お守りや大判焼き等、好きな物を選んで頂き、購入できるよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者家族へ年賀状を送っています。その際入居者様へ家族に年賀状を送る事を伝え、年賀状の文章と一緒に考えます。また氏名等お願いし記入してもらうようにしています。また家族等から手紙や届け物があつた際には、本人から電話ができるように支援しています。電話中は椅子に座り、ゆっくりと談話できるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から居間にかけての共有空間は季節感を感じられるように心がけています。食堂には外出時や行事の時の写真を掲載しご家族が面会に来た時の話題作りになるようにしています。和室では冬に炬燵を出して入居者がゆっくり思い思いに過ごせる環境づくりに努めています。廊下には天窓があり換気や採光の調節が出来るようになっています。手摺りも設置しているので歩行訓練など移動がスムーズに行えるようしています。	居間兼食堂は陽が良く入り、掃き出し窓から直接畑に出られるなど、季節を感じられる空間になっている。 季節毎に雛飾りや七夕飾りがあつたり、イベントの際の写真が飾られて、会話の種になっている。 冬には畳のスペースに炬燵が出され、利用者の昼寝の場所となっており、ゆっくり寛げる空間になっている。 壁伝いに手摺が設置されているため、歩行訓練に利用したり、移動時に安心できるつくりとなっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者同士で好きな場所での談話や食事を楽しんでいます。TV前にはソファを設置しており、好きな番組やビデオ（昔の歌謡曲）をゆっくり鑑賞できるようにしています。またリビングの隣りには和室がありうたた寝をされたり和室の縁に腰をかけ入居者同士で談笑したり思い思いに過ごされています。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の以前の暮らし環境に近づける為家族の理解と協力を得て空間づくりをしています。居室には思い出深い品々や家族の写真、仏壇、テレビ等が配置されています。他には使い慣れたベッドや椅子、タンスを持ちこまれ居心地の良い環境となっています。家族や孫の写真などを見えやすい場所に飾る等、心安らぐ居室になっています。	居室にはエアコンやクローゼット、カーテンが備え付けられている。 利用者は箆笥やテーブルセット、位牌、家族写真等思い出の物品を持ち込むことができ、自宅にいるような雰囲気の中で、居心地良く暮らせるよう工夫をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D-1シートを活用して入居者様のできることを把握しケアプランへ反映しています。入居者様が夕食作りにて包丁を使用する際には都度声をかけ注意を促しています。また一人で歩けるようにフロアはテーブルやいすを近くに置くことで手摺り代わりに使用し、たたみ部屋の障子を開けておくことで歩行に疲れた際にすぐ座れるようにして安全な環境作りに努めています。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 あっとホーム きりん荘

作成日 平成28年6月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設避難訓練のお知らせを配布しているが、地域住民の参加には至っていない。	災害時を想定し、避難訓練等において地域との協力体制を整備していく。	地域住民の避難訓練参加を促すことが出来るよう、運営推進会議等において訓練の実施予定を伝え、区長や民生委員の方々に協力を仰いでいく。	12カ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。